

# 最先端脳神経外科国際シンポ

## 福島氏 30年間の成果報告

北海道大野記念病院 (西区) の開院を記念して最先端脳神経外科国際シンポジウム札幌が開かれた。米国のデューク大学で最先端脳神経外科国際教授が「Microsurgical Flow Diversion with Fukushima Bypass」と題して、これまでの30年間で経験してきた巨大内径動脈瘤

の手術や Fukushima Bypass の治療成績について解説した。福島教授は、1980



巨大内径動脈瘤手術について説明する福島氏

0年代から両側の巨大内頸動脈瘤に対して Fukushima バイパスを活用。下肢の伏在静脈を用いた両側バイパスにより、良好な結果を得るとともに、巨大内頸動脈傍神経節腫瘍に対しては、側頭下バイパス (Fukushima Type II) を併用し、腫瘍を摘出した。

さらに、頸部外頸動脈と中大脳動脈のバイパス (Fukushima Type

IV) 手術などを写真や図解を用いて紹介。リスクの高い血管内手術ではなく、顕微鏡手術手技で flow diversion (血流交換を行うメリットを強調した。近年は、対面式の顕微鏡 (アシスタントスコップ) を使用し、2人の脳外科医が同じ術野で4つの手で手術を行っているという。

同シンポジウムでは、その他に招待した国内外の著名な脳神経外科医らの人が、さまざまな最先端の取り組みを発表した。